

夢のつばさプロジェクト 2015年春の交流会 学生報告書

【日時】 3月29日（日）10：00～17：00

【場所】 仙台市生涯学習支援センター、仙台市天文台

【参加者】 子ども12名（うち小学生6名、中高生6名）、学生スタッフ17名、社会人スタッフ3名

◆ 春の交流会について

夢のつばさプロジェクトは、東日本大震災の被災孤児遺児たちが夏と冬の長期休みに集い、活動を共にすることによって心を開ける仲間を作り、さまざまな体験をして学び合い、自らを育てていく力を養うことを目指して活動を開始しました。活動を展開するうちに、学生たちの中から「年に2回の夏・冬のキャンプの他にも、子どもたちと交流する機会をもっと増やしたい、子どもたちの絆を深めるためにも増やすべきだ」という想いが募り、学年末の時期に日帰りで春の交流会を実施することを提案しました。1 昨年

から夢のつばさの正式な活動となり、秋の交流会も開始されて、社会人スタッフにも協力してもらいながら実施しています。

仙台での交流会は今回で4回目となり、子どもたちにも学生スタッフ自身にも、学生の企画による仙台での活動が浸透してきたのではないかと思います。さらに、保護者の方と学生スタッフの交流の場としても、重要な活動になってきたと考えています。

◆ キャンプ概要

タイムスケジュール

10：00	集合
10：10～10：30	仙台市生涯学習支援センターへ移動
10：30～12：00	体育館遊び
12：00～13：00	昼食
13：10～14：30	仙台市天文台へ移動
14：30～15：45	プラネタリウム・おみやげ購入など
15：50～16：30	小学生仙台駅へ移動
16：30	小学生解散
16：30～17：00	中高生仙台駅へ移動
17：00	中高生解散

① 集合

10時に仙台駅新幹線南口改札前に集合しました。男の子は仲のいい学生と久しぶりに会い、はじめは少し恥ずかしそうにいましたが、すぐに緊張が取れて学生と楽しそうに話していました。女の子の中には、学生に手紙や自分で作ったブレスレットをプレゼントしている子もいました。全員そろったところで保護者の方に「行ってきます」のあいさつをし、徒歩で仙台市生涯学習支援センターへ向かいました。

② 生涯学習支援センターにて

センター内の体育館で、午前中いっぱい遊びました。初めはフリスビーを使うドッジビーをしていましたが、真っ直ぐ投げるのが難しかったようなのでドッジボールに変更しました。男の子も女の子も大学生も、思い切りボールを投げたり、当てられないように必死に逃げたりして、充分体を動かしました。

その後、自由に遊ぶ時間を取り、バスケットボールをしたり、一息ついておしゃべりをしたり、みんなで大縄跳びをしたりして過ごしました。最後にみんなでもう一度ドッジボールをして



午前のレクリエーションを終わりました。1時間半という短い時間でしたが、久しぶりに会った大学生と遊べるのがうれしそうで、みんな汗だくになりながら駆け回りました。

また、子どもたちが体育館で遊んでいる間、保護者の方たちと大学生の代表数名、社会人スタッフで懇談する時間を設けました。保護者の方から、子どもたちが毎回夢のつばさのキャンプを本当に楽しみにしているといううれしいお話を聞くことができました。男の子の中には、家ではあまりいろいろなことを話さない子もいて、「本人はとても楽しみにして参加している様子なのに、キャンプの内容をこちらにはちっとも話さない。頂いてきたアルバムや大学生からの手紙、キャンプでの子どもの体調や活動の報告を読んで納得したり喜んだりしている」という保護者のお話も伺い、とてもうれしく思いました。家庭内の事情をお話くださる方もあり、これからも夢のつばさの活動を通して、少しでも心の支えになりたいという想いが一層強くなりました。

お昼ご飯の前に、この春、専門学校に合格した子どもと高校に合格した子どもに、学生からお祝いのメッセージとプレゼントを渡しました。2人はとても喜んで、みんなを前に力強く抱負を語りました。学生もとてもうれしく思いました。これから新生活が始まり大変なこともあると思いますが、頑張ってもらいたいです。我々も力になれることがあれば、ぜひ応援していきたいと思えます。

③ 仙台市天文台

仙台市天文台ではプラネタリウムを見ました。冬から春にかけて見える星座の見つけ方や宇宙のお話を説明員さんがわかりやすく説明してくださいました。午前中、体育館で遊んだので寝てしまう子があるのではと心配しましたが、みな楽しそうに星空を眺めていました。途中、星に関するクイズが出され、子どもたちは「知ってるー」とか「えっ、うそー」などと面白そうに参加していて、これから宇宙や天体に興味を持ってくれる子どもたちが増えるといいなと思えました。

プラネタリウムを見た後は天文台内のショップでおみやげを買いました。こうしたイベントでは、いつも子どもたちからおみやげを買いたいという要望が出されます。天文台ショップらしく宇宙食なども並んでいて、子どもたちも興味をひかれていました。保護者の方におみやげを買った子どももありました。

④ 解散

天文台からの帰りは、路線バスが満員で小学生と中高生で別々になってしまいました。小学生はやや疲れたようにも思われましたが、中には「今度の秋は遊園地に行こう」と次の交流会を楽しみにしてくれている子もいました。その後、後発で帰ってきた中高生も仙台駅で解散し、帰路につくのを見送りました。

◆ 春の交流会を終えて

早いもので、夢のつばさのキャンプに参加している子どもたちの中から高校を卒業する子どもが生まれました。夢のつばさプロジェクトは高校生までの子どもを対象とする活動ですが、子どもたちが高校を卒業し、そして成人した後も、このキャンプでできたつながりが途絶えないよう関わっていきたく思います。高校を卒業した子どもたちにどのようにこの活動と関わりを持ってもらうか、スタッフ間で話し合っていきたいと考えています。

今回の春の交流会は運営面で準備がギリギリになり、話し合いの時間が十分に取れなかったことが反省点ですが、怪我もなく楽しく交流会を終えることができ良かったと思います。至らない点が多々ありましたが、社会人スタッフの方々の協力のもと、無事春の交流会を終えることができました。社会人スタッフからは、下見を有効に生かしてほしいという要望がありました。夏キャンプでは、早めの準備を心がけて本番に備えていきたいと思えます。